

# 卒論作成・提出

## この諸注意

明山安雄

研究室員の諸兄は、最後の夏休みも何かと落着かず、頭の中は「卒論」の事ばかり考えていたと思つてゐる。夏休みも終り、教育実習も無事終了し、更に前期試験の最中なので、「卒論」に精魂を打ち込む時間が、少なくなつて来ているが、愈々「卒論」の内容も一応軌道の上のつて来る時が迫つてゐるとき、「卒論」の作成・提出」について概略ながら記述する。

「卒論論文」は云つてもよくなく、卒業資格を得るための必須条件であつて、論文の作成には、高度の学問的知識が要求されるものである。既に「論題」の設定、「指導教授」の決定も済み、指導教授より基本図書、研究方法、研究資料等の指示をうけ、着々と論文を組織してゐると思つが、先ずオーに重要なことは「指導教授」と連絡を密にし、論文の組織内容について指導を受けるべきで、十月早々ともなれば、既に出来上つた「論文」の草稿と「指導教授」に提出し、「論題」と「卒論」の内容組織が要を得たものであるか、又、「文章の構成」「語

句の表現方法」「資料の取扱い方」「註の引用、記入」等の細部に渡つて、注意を受け、それを基本として、草稿を一段と充実して行くことが大切である。

次に、草稿を基本として「論文の組織」であるが、本学では「卒論」は「四百字詰原稿用紙五十枚程度」にまとめなければならぬ。

一般的に「組織」は、(イ) 目次 (ロ) 序論 (ハ) 本論 (ニ) 結論 (ホ) 註 (ヘ) 参考文献 となり

(イ) 目次は、一序論 二本論 オ一章〇〇頁 オ二章〇〇頁 として箇条書にする。

(ロ) 序論は 大体五、七頁に止め、本論述文の意図、梗概、要旨、趣旨等と要領よくまとめる。

(ハ) 本論は、オ一章 ( ) オ四章と章節を分け、各章の初めに必ず「章題」を付すこと。尚、各章に更に「節」「項」と分ける場合もあるが、「論旨の分離」を伺すから望ましくない。

(ニ) 本論は 四、五頁にし本論で述作した成果を明確に論述することである。

(ホ) 註は、論文に於て他の学説を引用するとき、又、

例 本論文	7 0 0 引用文 0 0 0 0 0 L	(8)
----------	--	-----

註。  
⑧  
出曉根攷  
○○  
一  
一  
云々

(ハ) 参考文献は、「論文」作成についで、参考とした言  
(辞典も含む)を著者名、書名の順に記すこと。

次に、「卒論」提出するときの条件等については、后

二、論文の形式

(四) 「本論文」以外に必要に応じて「副論文」の添附

三 提出方法

(b) 表紙に「指導教授名」  
「論文題目」  
「専攻学科」

以上

定々宗教的なものが望ましいですが、随筆、感想

意見のほかに一般的なものも期待します。

◆四百字詰一枚以内。原稿は返却しません。